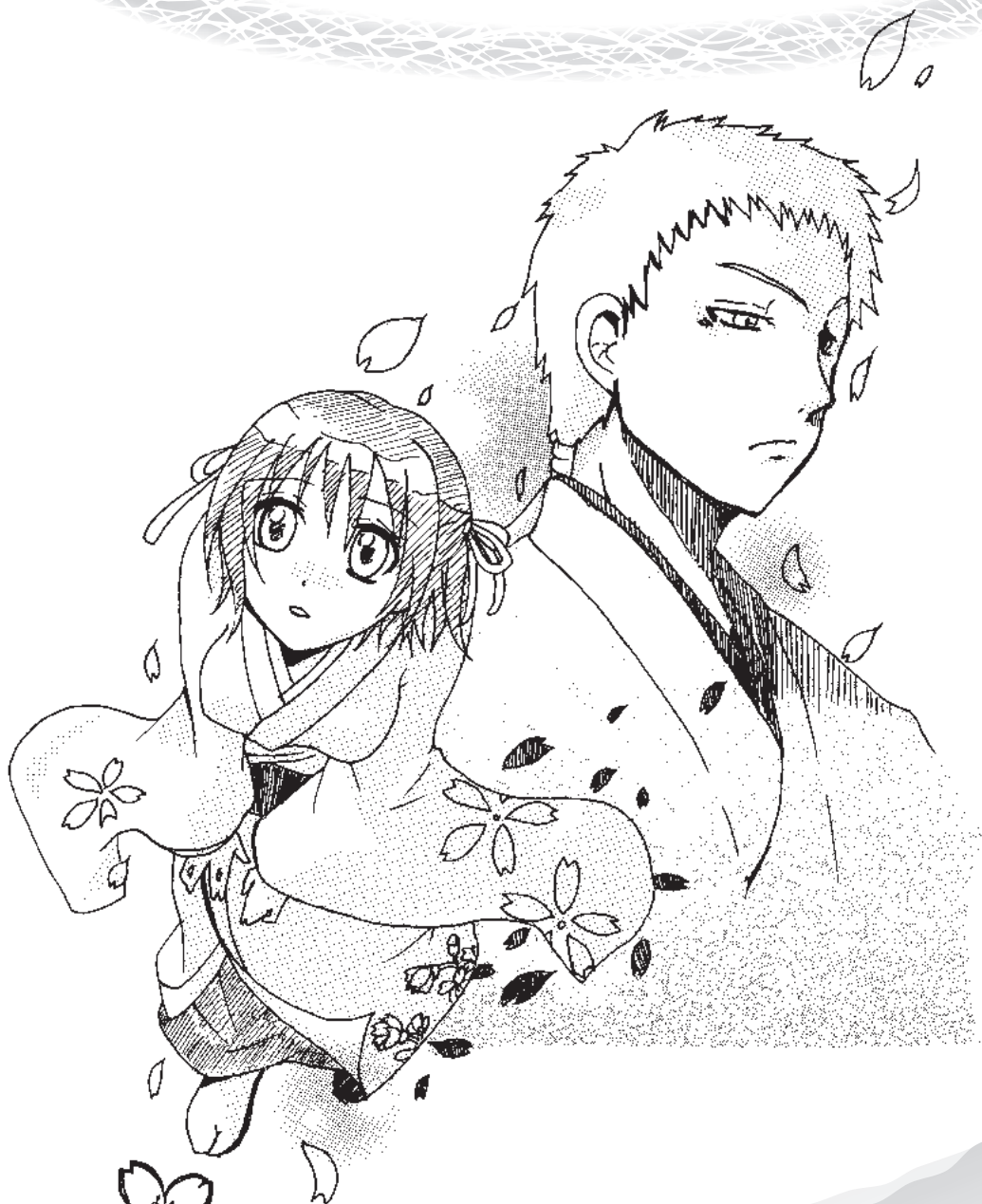


◆四国防災八十八話 第六十六話より

お お つ え
『大崩壊物語』



教訓：自然への畏敬の念を忘れぬこと

これは約二百年前の
伊予のある村での
お話——
……

あーっ

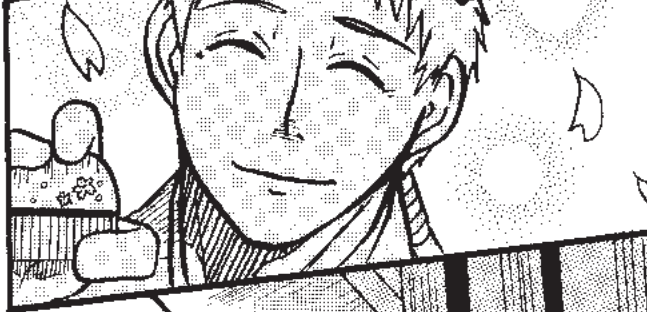
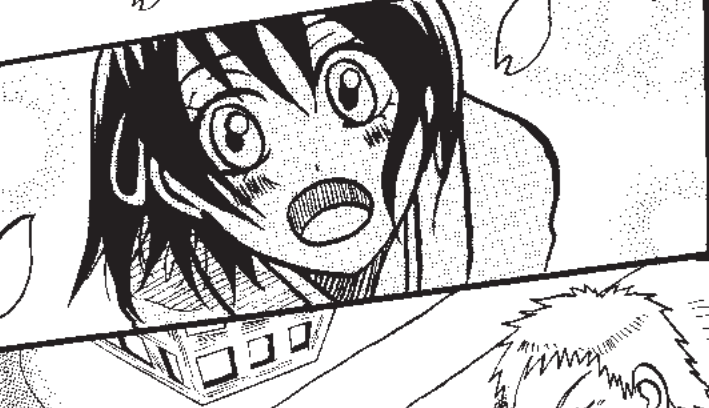
ホ

どうしよう
大切な櫛
なのにつ……

その日の夜
届けてくれた
男性と

滝つぼに落として
しまった櫛を

チャ



私は恋に
落ちた

でも
気になる
コト

それは

どこか冷たく
ただよ
漂う妖気

鋭いまなざし

添い臥しの
彼の肌の冷たさ

っ……!!

どうして?
この感じは
まるで、まるで……

コノ人

人間じゃ

ないみたい

「フイ……」



!?

ガニョッ

一体あなたは

何者?

なんだ?!



こんなつ
こと...



どうしてだ?!
どうしてー!



お梅...!!

あつ…!!

待って!!

待ってー…

彼を追って
着いた先

血の
跡が…

そこは

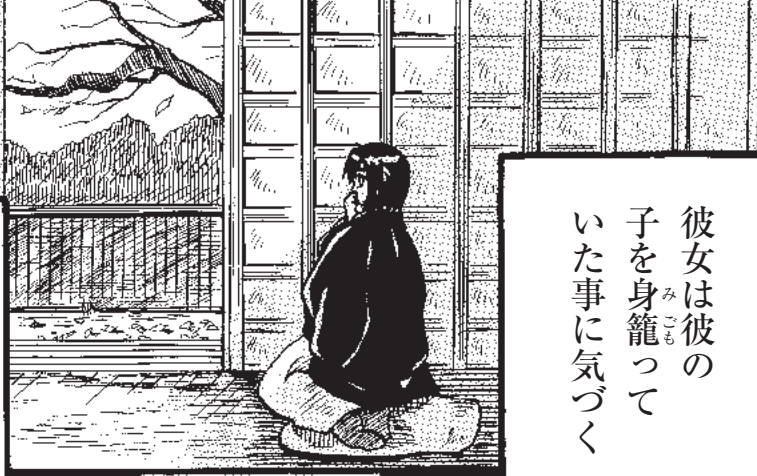
ここで
消えた…

櫛くしを落とした
「雨滝の淵ふち」—?」

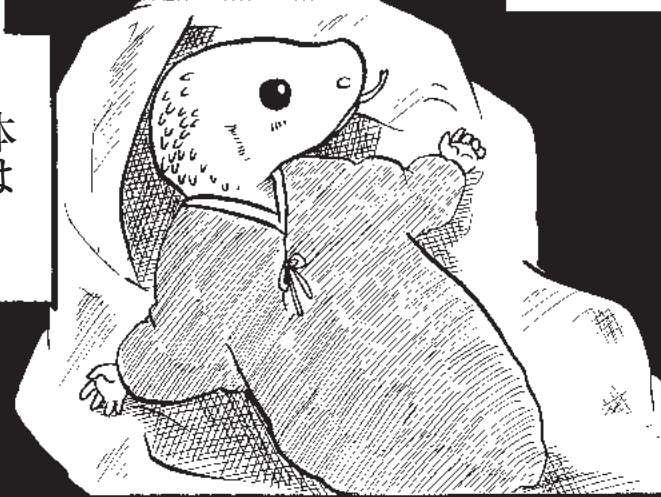
それから
数ヶ月後

彼女は彼の
子を身籠^{みこも}って
いた事に気づく

不安とあせりに
苛^{さいな}まれながら
生まれてきた
子供は……



体は
人間で



顔がへびの
子供であった

捨てて
しまおう

置いていか
ないで……

僕を……

こんな気味の
悪い子供……

育てられん
わ……

おぎやあああ

ああああ

!?



私の…

私の子供がつ…!!

嘆き悲しんだ
蛇の精は
竜となり

ウオオオツ!!!

その深い
嘆きは

七日七晩
豪雨を降らせた

鉄砲水の流れに
人畜は襲われ

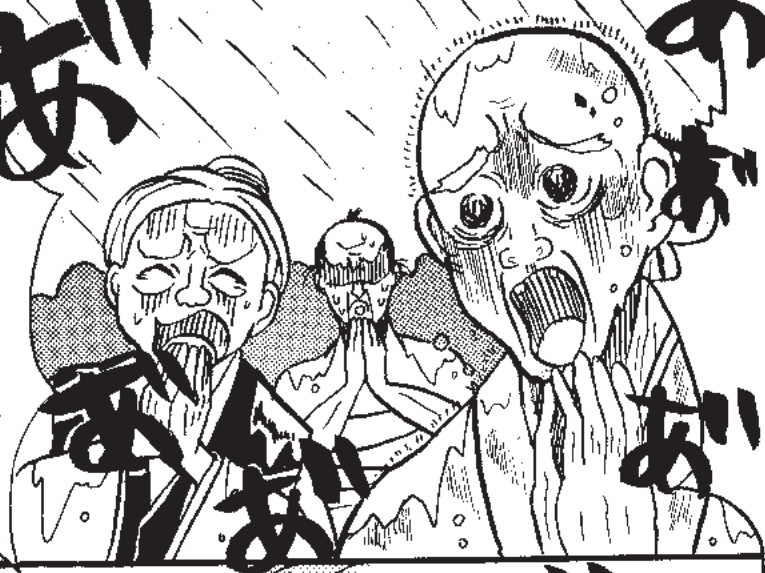
集落は
生き地獄と
化した

うわあああああ

山津波は
人家を
押しつぶし



このままでは
ワシらも
おしまいじゃ…!



ああ…ワシらが
雨滝の精を
ないがしろにした
せいで…!!

どうか



どうか

どうか
お助け下さい!!

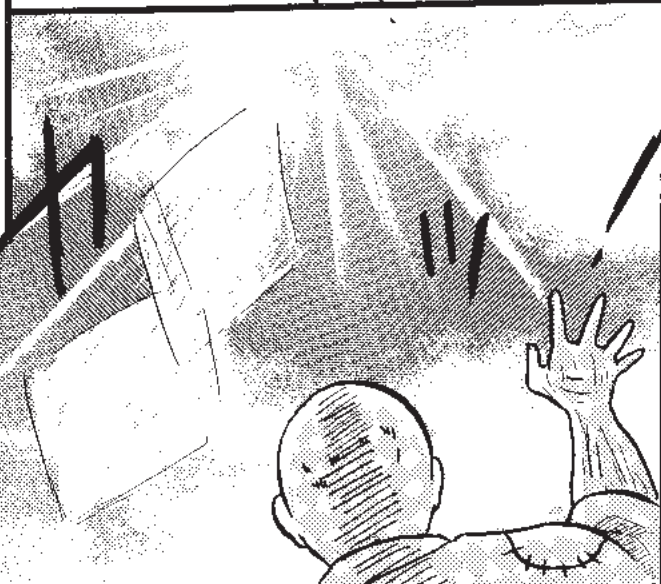
祈りが
通じたの
だろうか

七日七晩
つづいた



雨は
収まった

それからと
いうもの



人々は
竜神様の
祠ほこりを建てて祀りまつ

ありが
たや

ありが
たや

NO



竜神様の
功徳くどくを伝えた

